鴻沼川低水路護岸工事に関する説明会（令和7年9月20日）

主な質疑・応答

質問項目	質問内容	県からの回答
環境影響調査、補償について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立体駐車場や駐輪場などのマンション共用部の調査はどのように行うのか。 ・ 調査の際に家具を動かす必要はあるか。 ・ 事後調査は希望した人のみを対象に実施するのか。 ・ 過年度の工事で補償の対象となった事例があれば教えて欲しい ・ 工事による影響が顕著に発生した場合、工事途中であっても調査を実施してもらえるのか。 ・ 工事期間中に河川からの越水によって浸水被害があった場合、補償の対象となるのか。 ・ 補償金額は実際に損傷箇所を直さない場合でも受け取れるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マンション共用部の調査は管理組合と調整して実施する。本日の説明会に先立ち、管理組合へ事前説明をしている。 ・ 基本的には不要である。ただし撮影箇所が個人情報が含まれる場合等は、移動をお願いさせていただく場合がある。 ・ 希望した人を対象に実施する。事後調査実施前に希望確認を行う。 ・ 過年度工事の事例ではないが、一般的に考えられる例として「ブロック塀にヒビが入る」、「ドアの建付けが悪くなる」などが挙げられる。上記に上げたことが起こらないよう、注意を払って施工を実施する。 ・ 事後調査は基本的に工事完了後の実施を想定しているが、工事による明らかな影響が出ている等、状況によっては対応し得る。 ・ 工事に使用する重機や資材が河道断面積を阻害し、そのことにより越水して浸水被害を及ぼした場合、一般的に補償の対象となる。想定規模を遥かに超える降雨があった場合については、工事による影響と断定しづらくなるため、補償の対象になると言い切れない。 ・ 補償金額は積算基準に基づき算出するため、実際に損傷箇所を直す直さないに関わらずお支払いすることになる。

質問項目	質問内容	県からの回答
環境影響調査、補償について	<ul style="list-style-type: none"> 仮に工事の影響でマンションが傾いた場合、各部屋に補償金額が振り分けられるのか。もしそうであれば、マンションを修理したいと思っても、他の所有者の同意が得られず修理ができないといった状況になるのではないか。 金銭ではなく、直接修理という形で補償はできないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 後日HPにて回答する。 <p>※回答</p> <p>仮にマンションが傾いた場合、各部屋に生じた建付不良等の損傷については各所有者へ、建物全体の補修については共用部として管理組合へお支払いする。そのため、マンションを修理する、各所有者へ補償金を割り振る等、共用部の損傷に対する補償金の運用は各管理組合で判断していただくことになる。また原則として、金銭ではなくマンションを直接修理する形での補償はできない。</p>
工事について	<ul style="list-style-type: none"> 工事にはどのような重機を使用するのか。 どのような作業の時に騒音、振動があるのか。 施工方法は実際に振動、騒音の苦情を受けたという下流の工事と同様なのか。 工事で発生する騒音、振動は測定しているのか。 測定している場合どの程度なのか。 工事の完成イメージは下流側（桜三条橋～栄橋～桜橋）と同じものができると考えてよいか。 打設した軽量鋼矢板は工事完了の際に引き抜き撤去するのか。 打設する矢板を鋼矢板ではなく、軽量鋼矢板としているのはなぜか。 掘削時に土留め矢板を支えるための支保を設置することもあると思うが、今回工事には必要ないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事には小型の重機を使用する。 小型の重機が河道を往来するときに振動を実感しやすい。 騒音という点では、音の出ない期間はない。 擬木板柵の鋼管杭や軽量鋼矢板の打設の際には、金属と金属を叩き合わせたような音が発生し、一番音が出ると思われる。 基本的には同様である。 振動、騒音を少しでも低減する施工方法が無いか、施工業者と検討していく。 詳細な施工方法が決まり次第、ポスティングや貼り紙等で関わりの深い方へ周知を行う。 騒音、振動の測定はしていない。 騒音規制法や振動規制法の規制基準を超過する工事を行うものではない。 基本的にはそうである。 今年度は高水護岸基礎の補強として軽量鋼矢板を打設する作業を追加している。 軽量鋼矢板は高水護岸基礎部の支えの役割も担っているため、撤去せずに残置とする。 本工事箇所は狭隘であり、現場条件と打設可能な工法を選択したところ、通常の鋼矢板では吊り込む重機も打設する工法も妥当な選択ができないため、軽量鋼矢板で打設することとした。 軽量鋼矢板は自立するため、支保工の必要はないと判断した。

質問項目	質問内容	県からの回答
工事について	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年5月まで施工していた工事で桜橋上流にポンプを設置しており、夜間にもポンプの音がしていた。 ポンプを設置せずに施工できないか。 設置するとしても、年末年始などの長期休暇期間はポンプを止めることはできないのか。 排水ポンプは施工箇所の上流に設置するかと思うが、そちらにも工事の周知をするべきではないか。 「小村田橋」南東隣接部に、口径の大きい排水管が鴻沼川へ接続しているが、ここにもポンプを設置するのか。 ・令和7年5月まで施工していた工事の期間中、降雨により河川水位が相当の高さまで上がることがあった。 工事期間中に河川水位が上がることに對して、本工事は何か対策をしているのか。 ・激しい降雨により河川の水位が上がった際のリスクを考慮して、土のうや重機を直ちに撤去できるような施工体制を整えて欲しい。 夜間は重機を河道から引き上げることはできないか。 ・令和7年5月まで施工していた工事の期間中、河川の水位が上がった際に施工業者に連絡をしたが電話に出なかった。 緊急時に対応できる連絡体制を整えて欲しい。 ・重機の搬入搬出はどこから行うのか。 資材はどこに置くのか。 ・施工期間中、工事の進捗状況確認したいため、県のHPに載せることは可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンプは施工箇所に水を入れないために設置しているため、本工事でも設置する。ポンプの音を少しでも低減、また運転期間を短くする施工方法が無いか、施工業者と検討していく。 詳細な施工方法が決まり次第、ポスティングや貼り紙等で関わりの深い方へ周知を行う。 ・昨年度からの改善点として、本工事は降雨の可能性の低い11～3月までに本体施工が完了し、4月以降は計測や型付け作業のみを行うことを前提とした施工延長で発注している。 ・前提として、本工事は激しい降雨の可能性の低い11～3月までに作業を行うためリスクは低いと考えているが、施工業者と検討していく。 詳細な施工方法が決まり次第、ポスティングや貼り紙等で関わりの深い方へ周知を行う。 ・さいたま県土整備事務所の代表電話宛に連絡をしていただければ、警備会社伝いで夜間や休日でも職員に連絡が行くようになっている。 また、水防活動というものがあり、大雨警報、洪水注意報が発令された際には、当番の職員が事務所に待機することとなっている。 詳細な施工方法が決まり次第、ポスティングや貼り紙等で関わりの深い方へ周知を行う。 ・現状、工事進捗を確認したい際には、メールや電話で事務所に問い合わせいただくことになる。 関わりの深い方へ工事進捗を周知する方法を検討する。

質問項目	質問内容	県からの回答
<p>工事について</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回工事は改修工事（河川的能力を上げるもの）ではなく、護岸の維持管理工事と考えてよいか。 ・河道の拡幅は難しくても、河道を掘り下げることで河道断面を広げることができないのか。 ・鴻沼川はどの程度の雨に耐えられるのか。 ・水位が上がった際、避難の判断基準のようなものはあるのか。 ・2018年8月27日に1時間58mmの降雨があり、工事箇所付近が冠水した。冠水が起これないよう整備できないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理工事である。 河道を拡幅整備する改修計画はあるが、改修に踏み出すとなると、沿線の用地買収や、橋の架替えや統廃合を伴うため、多大な費用と調整期間を要する。 現在、鴻沼川では与野中央公園調節池の建設工事に改修工事の予算を充てている。与野中央公園調節池の建設工事は令和9年3月末完成を目指して施工している。 ・現況の護岸は農業排水路時代に作られたものであり、高水護岸の基礎がどの深さにあるか不明である。そういった状況で河道を掘り下げると、高水護岸を崩れさせてしまうリスクがあると考えている。 また河床勾配は河川全体で計画されているため、河道を掘り下げるとなると、河道未改修区間だけでなく、下流側まで河床高を変更する必要がある。 ・今回工事区間について、地上部の河道と地下河川を合わせて、50mm/hr程度の降雨に耐えられるよう整備されている。 「50mm/hrの降雨」とは、雨の降り始めから降り終わりまでの間に、降雨量のピークがあるとして、そのピーク1時間の降雨量が50mmの降雨ということである。 ここでのピーク1時間はあくまで1回を想定しているものであり、同規模の降雨が長時間続く、あるいはピークが複数回あった場合にも耐えられるという設計ではない。 ・webサイト「埼玉県川の防災情報」で水位計の数値を確認できる。 今回工事区間の上流側に「十五条橋」水位計があり、避難判断の目安となる水位が設定されている。 <p style="text-align: right;">埼玉県川の防災情報 https://suibo-river.pref.saitama.lg.jp</p> ・雨水管は埼玉県ではなく、さいたま市の下水道課が管理しているものと思われる。 鴻沼川に注いでいる雨水管の場合、合流先である鴻沼川の水位が上がり、雨水管の水が鴻沼川に流入できずに冠水したものと推察される。 整備計画を超える規模の降雨には各自で命を守る行動を取っていただくことが必要となる。

質問項目	質問内容	県からの回答
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・河床に堆積した土砂は放置しておくとう河道断面積を狭めていくと思うのだが、定期的に河床の土さらいのようなことはしているのか。特に、小村田橋周辺に土砂や草が溜まっている。 ・既設の高水護岸から樹木や雑草が生えている箇所が散見される。また、令和7年5月まで施工していた栄橋～桜橋の区間について、降雨で水位が上がると工事で設置した割栗石の隙間に土が堆積し、そこから雑草が生えている。河川の維持管理のために定期的な樹木伐採や草刈が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道内に堆積した土砂や、木を撤去する浚渫工事というものがある。本工事区間は河床の土砂が高水護岸基礎の抑えの役目を担っている側面もあるため、バランスを見極めながら適正な維持管理に努める。 ・樹木や雑草の繁茂状況を注視し、必要な箇所については樹木伐採や草刈を実施する等、適正な維持管理に努める。